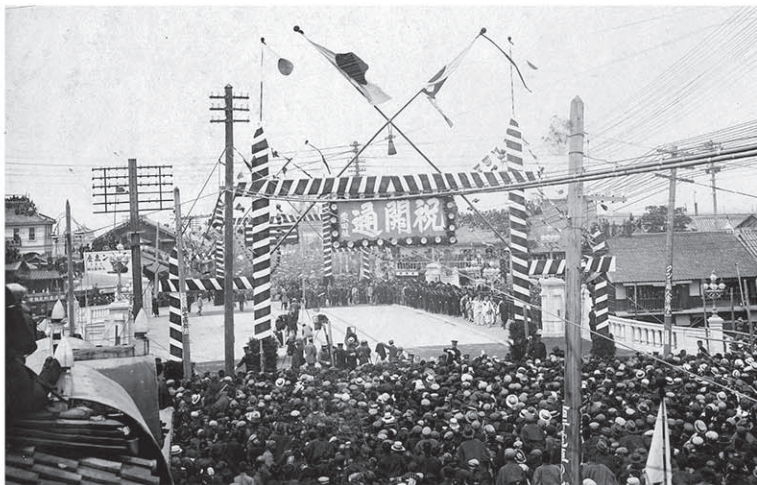


20 改築なった納屋橋

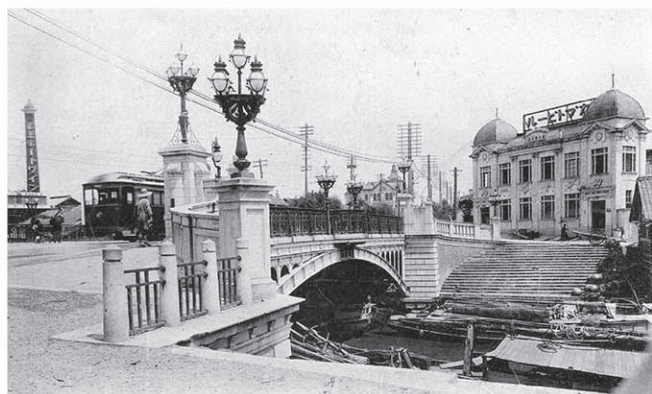
大正2年、発展した名古屋の玄関にふさわしい納屋橋に改築され、当時の新聞は「ハイカラな橋」と書いている。たくさんのスズラン灯で飾られ、河畔には立派な物揚場が設けられている。モダンな市電の横の通行人は和服のようだ。

21 スズラン灯のない納屋橋

納屋橋といえば華やかなスズラン灯と手の込んだ高欄。中島鉄工所が心血を注いで作ったものだが、写真の納屋橋にはスズラン灯が付いていない。大正2年の竣功からわずか5年後の7年に米騒動が発生した。群集と警察・軍隊が対峙したのは米穀取引所近くの泥江交差点。その余波が納屋橋まで及びスズラン灯は壊され、写真のものに変えられた。(名古屋都市センター蔵)



百年前の納屋橋姿初め(上 栗田昌樹氏蔵) スズラン灯も華やかな姿の納屋橋(下)



22 堀川の引込運河 (明治43年頃)

明治40年に納屋橋下流東岸の元藩蔵(そのち監獄)で、東海倉庫(株)が営業を開始した。混雑する堀川での荷役を避けるため引込運河を掘り、構内の倉庫に横付けできるようにしている。平成の堀川整備で引込部が見つかり現地で保存されている。



23 愛知県病院と医学校 (明治43年頃)

堀川東岸に明治10年、愛知県医学校と病院が造られた。この地方で最初の先端治療と教育を行い、今の名古屋大学医学部の元となった。新州崎橋上流の河岸に記念碑が建てられている。

